



協栄産業株式会社

茨城県立水戸工業高等学校

生徒会



茨城県立水戸工業高等学校 生徒会のみなさん  
(毎日届く再資源化用の大量のペットボトルの前で)

## 『分ければ資源、混ぜればゴミ』知っていますか？ ペットボトルリサイクル！

日本有数のペットボトルリサイクル技術を誇る協栄産業グループ。今回、茨城県立水戸工業高等学校生徒会のメンバーが、協栄産業グループの最新工場＝ジャパンテック(株)東日本PETボトルMRセンターを訪問し、高校生環境研修を実施しました。高校生にとって最も身近な飲料容器「ペットボトル」が、どのようにして再生されていくのか。限りある資源を次世代にもつなげるために今の私たちに何ができるのかを学びました。

### 分別して捨てたら・・・リサイクルは終わりではありません

身の回りの様々なものに生まれかわるペットボトル。あなたが毎日着る制服にもペットボトルの再生素材が使われているかもしれません。そんな「リサイクルの優等生」として93%が回収されるペットボトルですが、実はその多くが良質な資源として海外に輸出されています。リサイクルすれば原油と同じように利用できるペットボトルは『都市油田』です。国内での循環の拡大が、持続可能な社会を実現します。

### リサイクルするとどんな良いことがあるの？

実は原油由来のペットボトル素材と再生素材を作る場合を比較すると63%ものCO<sub>2</sub>排出量を削減します。COP21でパリ協定が成立するなど、CO<sub>2</sub>削減の世界的な取組みが広がる中、日本が掲げる削減目標の達成にリサイクルが貢献します。また、不純物を完全に除去した再生技術の開発で、不可能と言われていたペットボトルが再びボトルに蘇る日本初の『ボトル to ボトルリサイクル』を2011年に実現。現在では100%再生素材のボトルも登場し、協栄産業グループの再生素材を使えば、原油を新たに使う必要がありません。

### みなさんにもできること

資源のない日本ですがペットボトルという貴重な資源を国内循環することで、地下資源の利用抑制と温暖化防止に繋がります。飲み終わった後にラベルを取って中を洗うことで、その後に生まれる再生素材の品質が向上します。是非協力を続けて頂き、地球の未来を明るくしましょう。



選別工程見学の様子



世界の有名サッカーチームのユニフォームにも再生素材が使われている



研修は土曜日。研修後、協栄産業古澤社長と記念撮影

## 茨城県立水戸工業高等学校 生徒会

### 感想



濱村 星苑さん(2年)

私は普段、キャップをはずすだけで終わりにしていましたが、この研修でラベルをはがしたり、ゆすいだりするだけでも大きく変わる事に気がきました。



鈴木 もりのさん(2年)

石油を輸入しなくても、いろいろな製品を作れるという技術に驚き、私自身も日常生活からリサイクルを意識してみようと思いました。



池元 達彦さん(2年)

説明を聞き、不可能と言われたボトルに戻ることにも成功したことを知って驚きました。ペットボトルに対するリサイクルの考え方が変わりました。



吉田 真菜さん(1年)

ペットボトルを細かく分別する理由がよく分かりました。ペットボトルの都市油田のお話を聞き、分別をこれからも続けていきたいと思いました。



益子 静羅さん(1年)

今まで、なんとなくペットボトルを分別していましたが、分別することの大切さを知り、地球をよりよい形で残せるように協力していきたいと思いました。